

新たに入会された皆さん
賛助会員

・松藤 聖一
・松浦 雅子

寄付をいただいた皆さん

・相田 英俊
・三戸 俊徳
・鶴丸 悌一
・中原 さくし
・中山 修
・遠座 俊明
・匿名希望 3名

新たに入会された皆さん
正会員

・NPO法人
シエアフィールド

(順不同、敬称略 期間：2014年12月11日～2015年2月28日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 175,400円

2014年6月4日～2015年2月28日

ご支援ありがとうございました。

(認定) 宝塚 NPO センター会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

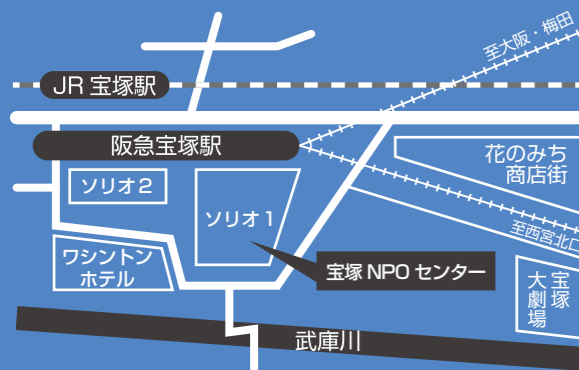
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

| | | | |
|----------|-----------------|----------|---------|
| 個人正会員 | 団体正会員 (NPO 法人他) | 法人正会員 | 賛助会員 |
| 10,000 円 | | 30,000 円 | 3,000 円 |

振込先

| | | |
|------|--------------------------|-----------------|
| | 銀行振込 | 郵便振替 |
| 銀行名 | 三菱東京 UFJ | |
| 支店 | 宝塚支店 | |
| 口座番号 | 普通預金 3629422 | 00930-8-77117 |
| 力ナ | トクテイヒエイリ タカラツカエヌビーオーセンター | タカラツカエヌビーオーセンター |
| 口座名義 | (特) 宝塚 NPO センター | 宝塚 NPO センター |



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センターニュース
TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

82 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2015.3

子どもへの「虐待」
それは、親からの「暴力」という教育

宝塚NPOセンターは
みなさまの寄付で支えられています。

http://hnpo.net/support/
認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

特定非営利活動法人
女性と子どものエンパワメント関西 理事長 田上 時子

● 若者就労支援

<宝塚市若者就労支援事業>

本事業は宝塚 NPO センターが宝塚市から受託し、本年度で 6 年目となります。就職についてさまざまな不安や悩みを抱えた若者に対し、社会経験のための学習・訓練・実践的職場体験という多様な段階を踏まえ、働くイメージを育むことで、就労意欲を高め一人ひとりにあった進路を発見し、継続就労が可能となるプログラムが 7 月からスタートしました。はじめは不安と緊張でいっぱいの様子でしたが、プログラムを続けていくと、時折笑顔が見られるようになり、緊張しながらも意見を発表したり少しずつ人ととの会話を楽しいと感じられるようになっていく姿が見受けられました。

全てのプログラムを終え、1 月におこなった修了式では一人一人が胸を張り、成長した姿を見せてくれたことに、涙なしではいられませんでした。ここまで来るのに約半年間、大変なこともありましたが、一生懸命がんばる彼らの姿が私たちの励みになると同時に、多くの学びを得ることもできました。彼らと共に歩み、共に成長してこられたことを嬉しく思います。無事に修了式を迎えられたのは 9 名。決して多い数ではありません。しかし彼らにとってはここからが始まりです。そんな彼らが自信を持って就労できるよう、私たちはこれからもサポートの手を止めることはありません。そして、まだまだ社会の中に埋もれている若者が一人でも多く、未来に向かって歩き出せるよう、地域全体で取り組んでいかなければと思います。(T)



自己分析で新たな自分を発見



さまざまなワークを通して「働く」をイメージ



職場体験先に向けパソコンで履歴書作成

● 協働の場づくり ● 市民のネットワークづくり

市民による地域の環境保全活動「アドプト」を知っていますか？

アドプト活動は地域のため、環境保全のためにと頑張るボランティア団体・地縁団体・NPO 等の方々が行っています。この活動をさらに充実させるため、今年度も 2 月に第 2 回「アドプトをもっとよくする会議」を開催しました。参加団体は、第 1 回よりも 2 団体増え、活発な議論がなされました。今までは同じ思いを持ち活動している団体でありながら他の団体とのつながりがなく 1 つの点としての活動でしたが、その点をつなげ線となり面となって活動していくきっかけになる会議となりました。別の活動団体の人たちと顔見知りになり、活動についてを話し合うことは、自分たちの活動の重要性に気づくことにもなります。最後は「自分たちの活動に点数をつけるなら 10 点満点中 10 点だと誇らしげに言い切れるこの活動をいつまでも継続していきたい」と締めくくられました。

昨年 11 月 1 日、ギネス認定に挑戦した「宝塚 1 万人のラインダンス」の舞台になった武庫川の河川敷。その舞台は地域のアドプト団体が日頃から草刈りをし整備していました。また、このイベントが決定した時には、ラインダンス実行委員会の方々と一緒に清掃美化活動を実施し、あの記録の舞台を作り上げました。

このような表には出ないけれど、地域づくりを支えている活動を広く知っていただきたいと団体の紹介冊子「みんなのアドプト」を今年度から発行しています。興味のある方は宝塚 NPO センターまでお問い合わせください。(Y)

道路や河川などの公共エリアの草刈り、植樹管理などの維持や美化活動を市民の皆さんと協働して行う制度です。



アドプトをもっと良くする会議



「みんなのアドプト」1、2号

○ お知らせ

正会員以外の方も参加できる交流会も予定しています!!

平成 27 年度通常総会 **5月10日(日)** 場所 宝塚市立勤労市民センター

あの人の コラム

「我が NPO と家族の故郷、宝塚」

平成元年に 10 年を経てカナダから帰国しました。両親が住んでいた宝塚市で私の家族も市民になりました。以来、事務所も住まいも娘の小中学校も宝塚市内で、今は孫たちもお世話になっています。当法人は女性や子どもへの暴力防止を目的に様々な事業を全国向けに展開していますが、平成 19 年より宝塚市立男女共同参画センターの指定管理者として、宝塚市の男女共同参画社会づくり推進のお手伝いをしています。また、平成 26 年には宝塚市子育て支援グループ促進事業として、事務所地下 1 階の「ほっとすべ〜す」で子育て中の親たちの交流と相談の場を提供しています。これらの仕事を豊かな自然と文化あふれる宝塚でできることを幸せに思っています。

特定非営利活動法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長 田上 時子

取材に行ってきました!!

「被害者をつくらない、加害者をつくらない」

C A P (Child Assault Prevention) = “子どもに対する暴力防止” を目的に作られたプログラム。その専門家養成講座を日本で最初に開催し、今も全国区で活動をされている特定非営利活動法人女性と子どものエンパワメント関西は「女性と子どもの社会参画」を通じ「一人ひとりが大切にされる社会」を作り「平和で平等な世界」の実現に向けて活動されています。今号は理事長の田上時子さんから宝塚市小林にある法人事務所でお話を伺いました。



ブルーの壁が印象的な阪急小林駅徒歩 5 分の本部事務所



事務所地下 1 階親たちの交流と相談の場「ほっとすべ〜す」



各線宝塚駅前「男女共同参画センター・エル」

「キラキラ光る施設管理をしています」

宝塚市民には愛称「エル」で知られる宝塚市立男女共同参画センターの指定管理もされている特定非営利活動法人女性と子どものエンパワメント関西は、市の指定管理者第 1 号として小さな意見も吸い上げるよう意識し運営されています。例えば、「フリースペースで会議ができる」「本・雑誌・DVD が閲覧できる」など、講座や貸館の利用者以外にも多くの市民が利用しやすいよう心掛けられています。「老若男女さまざまな人たちが来てくれます。そんな何気ない日常と私たちの日常業務が接する現場でこそ、気付けることがあるんです。」とのお話には職員と利用者が施設を通じて交流ができていく風景が浮かび、同じく指定管理を承っている私たちとして共感を覚えました。

「これが、NPO 流エンパワメント～子どもの“らしさ”を伸ばすには?～」

「暴力は最大の人権侵害。誰かの“らしさ”を奪うことも暴力の一つ。そして、奪われた“らしさ”や人がもともと持つ内なるチカラを引き出すこと、それが私の考えるエンパワメントです。誰かをエンパワーする時は、上から目線ではなく“いっしょ”に始め、時には“信じて任せる”ことが大切。」と語る田上さんの教育方針は長年に渡り多くの人を助けてきたリアルな体験からくる迫力があるものでした。

「時代が違えば、教育は変わる。教育が違えば、価値観は変わる。」

「例えば夫婦円満なだけで“非暴力”という教育になる。すべての人には生まれつきの気質=その人らしさがある。それを見抜き、時代に合わせて引き出すのは大人の役割。必要なのはその人を認めて具体的に褒めること。」と田上さんは語ります。自分の価値観を押し付けない年代・時代を超えた接し方。自分も相手も傷つけない非暴力の考え方。田上さんが大切にしているエンパワメントとは、実は誰でもができることで、すごくシンプルに言ってしまうと今、自分の横にいる人と「ワクワク」することなのかもしれません。